

## 観戦スタイルの変化から導く新しい野球観戦の提案

### -トラックマンデータを活用した野球観戦の検証-

[2017・FW] 21421101 山中洋佑

#### 1. 研究の背景と意義

近年日本プロ野球のファンサービスの形が変化している。1960年代頃の王貞治や長嶋茂雄といった選手が活躍した時代は、ファンと選手の間が一線が引かれており、憧れの対象であった。雲の上の存在として認識されていたといえるかもしれない。ところが、プロ野球改革元年と呼ばれる2005年を境に、一般の観客が野球をより楽しみやすい、球場に足を運びやすい流れに移行しているように感じられ、各球団の取り組みからファンと選手との境界線が、無くなってきているように感じる。さらに2014年からは、高性能弾道測定器「トラックマン」を各球団が導入し、データ戦略の新たな時代が到来している。そこで勝利のために活用されるデータをプロ野球ファンへ、楽しむためのツールとして今後活用できると考え、本研究に至った。

野球界に新たな観戦を生み出すことで、ファンに向けてより良いサービス提供することに繋がり、盛り上がりを見せている野球界をさらなる活性化に貢献できるものとし、研究の意義とする。

#### 2. 研究目的・方法

研究の目的は、第一に現状の観戦スタイルの限界を示すことである。第二に、第一の目的で明らかにしたことから、データを活用した新たな観戦スタイルの考察・提案を行うことである。

研究方法は文献と事例研究の事例をもとに考察する。さらに、楽天野球団へのヒアリング、一般の人へのアンケート調査を行うことで、考察を深めていく。

#### 3. 研究結果・考察

##### (1) 現状の観戦スタイルの限界

これまでの野球観戦スタイルの変遷から、球場での観戦から始まり、ラジオ、テレビ、そしてインターネットを介した視聴へと移り変わってきた。その中でも特に主要な観戦方法であったテレビ視聴の視聴率が下降し、限界を迎えている。また観客動員数においても2005年に1度下降し変化が求められていた。

そこで、スマートフォンやタブレット端末といったスマートデバイスの普及により、それらを活用したサービスの拡大が進められている傾向にあることが分かった。

また、地方球団のマーケティング戦略として地元密着型のサービス展開をすることで、観客動員数を増加させてい

る傾向にあることも分かった。

##### (2) 新たな観戦スタイルの提案

(1) から、スマートデバイスの活用に着目し、データを表示したり、それを活用したりすることで、日本プロ野球の対戦を観戦する、データ活用型観戦として提案する。データとしてはトラックマンデータを例として取り上げることにした。その際に斉藤(2011)のソーシャルシフトより、「一方的に感動を届ける関係」から「信頼で結ばれたエモーショナルな深い関係」に発展することを重要として、以下の3つの新たな観戦を提案した。

- ① アプリを用いてのデータ解説
- ② 球場でVRを貸し出し、選手目線の体験
- ③ 投球の上下の変化、横の変化の表示

以上の提案を、まず初めに、楽天野球団チーム統括本部チーム戦略室に伺った結果、ファンのニーズの重要性、トラックマンデータの位置づけを明確にする必要が指摘された。そのうえでアンケート調査を行った結果、①③はこれまで曖昧だった分野が具体的な数値になるものに興味があることが分かり、解説において活かせることが分かった。②はニーズの存在を確認できたものの、その理由を明確にすることまで至らなかった。

#### 4. 結論

野球観戦スタイルは、テレビ視聴の限界を迎えており、スマートデバイスを活用した新たな視聴方法が展開され、それを活用した観戦方法を提案した。

トラックマンデータを用いた(1)アプリを用いてのデータ解説視聴と(2)球場でVRを貸し出し、選手目線の体験、(3)投球の上下の変化、横の変化の表示の3つを具体的な提案とし、楽天野球団の助言もいただいた。さらに一般の人へのアンケート調査した結果、解説員によるトラックマンデータを根拠とした観戦はファンにもニーズがあり有効であることが導かれたものの、ファン、球団、選手の間での「信頼で結ばれたエモーショナルな深い関係」構築には至る観戦にはならないと考え、本研究では次世代の新しい観戦として提案するに至らないと判断した。今後、新たな関係に発展する観戦スタイルが確立されることに期待をしたい。